

## 辰野金吾（たつのきんご）2/2

～ヨーロッパ風日本建築の開祖～

～1/2からつづく～

帰国した金吾は、工科大学（東京大学）教授となり、明治21年（1888年）日本で初めての博士となりました。

この年政府は、ヨーロッパの国に負けない中央銀行（日本銀行）の建設を計画し、設計を金吾に依頼しました。金吾は、地震にあい家がゆれ動き恐怖を覚えた経験から地震国日本には、地震や火災に強い石やレンガの建物が必要だと考えていました。そのため日本銀行を建てる時地下6メートルまで掘り下げ、その上に厚さ3メートルの基礎をつくるなど地震対策に万全を期しました。明治29年（1896年）ヨーロッパ風ルネサンス様式の赤レンガ造りの堂々たる建物が完成しました。

さらに、明治39年（1906年）東京の表玄関に日本一の駅（東京駅）をつくることになり、金吾が設計し、赤レンガ造りの巨大な建物が誕生したのは大正3年（1914年）でした。明治の三大建物といわれる建物のうち、日本銀行、東京駅の2つを完成させた金吾の名声は高まり、関東大震災のときも2つの建物はびくともしませんでした。色鮮やかな赤レンガ造りのヨーロッパ風ルネサンス様式の建物を人々は「辰野式建物」と呼びました。

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



東京駅



旧唐津銀行本店  
辰野金吾の弟子が設計した

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』  
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467